

「日々の理科」(第1971号) 2019, 12, -1

「小石川植物園の新しい温室(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

小石川植物園は、公園ではない。一般に公開はされているが、東京大学の植物学の研究施設である。従って入園者にはさまざまな制約(心得)がある。たとえば、飲酒の禁止、球技の禁止、楽器演奏の禁止、植物採集の禁止などである。飲食(お弁当)は可能だが、基本的には「遊びに行く場所」ではない。

植物園には、戦前から研究用の温室があった。しかし耐震構造に問題があり、長らく公開されていなかった。その温室が新築され、この11月から公開されることになったので、さっそく見にいってみた。ここはよく子どもたちを連れてくるので、「下見」といってもいいだろう。



温室公開直後の日曜日だったので、門まで列ができているかもしれない・・・と思っていたのだが、意外にも入園者はまばらだった。温室公開に合わせて、入園料が500円に値上げになったのも影響しているかも知れない。園内は晩秋の景観になっていた。



普段ならスケッチの道具を持って、奥の森に直行なのだが、今回はまず新しい温室に寄ってみた。植物園の閉園は午後4時30分なのだが、温室だけは午後3時に閉まってしまうのだ。立派な温室になっていた。



温室前には、古風な煉瓦囲みの池がある。どう見てもこの池は新しく造営したようには見えない。



実はこの池は戦前からあったもので、水生植物(ハスやコウホネの仲間)が栽培されていたらしい。戦前(昭和初期)の写真を見ると、中央に立派な噴水も据えられている。噴水は空襲で倒壊してしまい、現在は基盤の部分だけが残っている。このような歴史的に価値のあるものを、うまく残しているのはとても良い。